

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	人形劇
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしゃひとみざ		
	制作団体名	有限会社ひとみ座		
	代表者職・氏名	代表取締役 倉 正人		団体ウェブサイトURL
				https://hitomiza.com/
	制作団体所在地	〒 211-0035	最寄駅(バス停)	東急東横線元住吉駅
		神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	にんぎょうげきだんひとみざ		
	公演団体名	人形劇団ひとみ座		
	代表者職・氏名	劇団代表 中村 孝男		団体ウェブサイトURL
				https://hitomiza.com/
	公演団体所在地	〒 211-0035	最寄駅(バス停)	東急東横線元住吉駅
		神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
	制作団体 設立年月	昭和39年 10月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 倉正人 取締役 中村孝男・甲斐勝行・石川哲次 監査 税理士法人昴星(岩田克夫)	(1) 団体構成員 計63名 劇団員45名、嘱託3名、研究生4名、団友11名 (2) 加入条件 ひとみ座養成所を卒業後入団	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	来住野 正雄
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	宇野 かよ
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス	電話番号	
		puppet@hitomiza.jp	0447772225	

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>昭和23年「劇団ひとみ座」を鎌倉市で創立、翌年「人形劇団ひとみ座」に名称変更をする。小学校の芸術鑑賞教室、幼稚園・保育園での鑑賞会、全国ホールでのツアーなど、人形劇の専門劇団としての活動を展開する。</p> <p>川崎市に本拠地を移し、昭和39年に「有限会社ひとみ座」を設立。同年、NHKテレビ人形劇『ひょっこりひょうたん島』が放映開始、人形美術・製作・操演の全てを担当する。昭和58年に神奈川県文化賞と川崎市文化賞を受賞。他これまで作品での受賞多数。</p> <p>平成17年より日生劇場プロデュースの人形劇ミュージカルに、出演・人形美術及び製作で参加。これまで16作品の公演に関わり、令和7年度は『せかいいちのねこ』に参加する。</p> <p>令和5年度には『花田少年史』川崎市アートセンター公演を創立75周年記念事業として実施した。『花田少年史』は令和6年度児童福祉文化財推薦作品に認定される。</p> <p>令和2年度より本事業B区分団体として採択継続中。また舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)の複数年計画支援団体として令和2年度より採択継続中。</p>	
	学校等における公演実績	<p>全国の小学校での巡回公演を創立以来当劇団の中心的事業として、多彩な作品を制作・公演してきた。例年200～300回の公演を実施している。</p> <p>令和5～7年度は、学校独自の事業に加えて、各市町村の教育委員会等主催による事業、僻地支援を趣旨とする日本児童青少年演劇協会主催による事業にも参加した。コロナ禍においても感染防止に万全を期して同様の活動を継続した成果も影響して、小学校における年間公演数が令和4年度比で約1.2倍に増加、小学校等での公演活動に更なる実績を積み重ねている。</p> <p>～令和6年度学校公演実績(本事業を除く)～ 『9月0日大冒険』 40校72公演 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』 82校140公演 『シュレミールと小さな潜水艦』 24校26公演</p> <p>～令和7年度学校公演実績(本事業を除く、見込み)～ 『9月0日大冒険』 44校64公演 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』 74校127公演 『シュレミールと小さな潜水艦』 16校25公演</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<p>徒歩圏内に神奈川県立中原養護学校があり、公演実績はもちろん、劇団訪問(町探検・職場体験等)やワークショップなどを含めた日常的な交流を実施している。</p> <p>他、川崎市立田島支援学校、川崎市立中央支援学校など、主に神奈川県内の養護学校で多数の実績を持つ。障害の度合いに応じたプログラムを企画して対応する。</p> <p>令和元年度文化芸術による子供育成総合事業では、栃木県立足利中央特別支援学校で公演を実施、対面を含む準備や打ち合わせを行い、実情に応じたプログラムを実践した。令和6年度も神奈川県立座間支援学校にて本プログラムを実施。</p> <p>令和7年度は東京都主催「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」にて、東京都立水元小小学園肢体不自由教育部門での公演実施に向けて、現在詳細調整を行っている。</p>	
参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/YBHfpMdXqHw	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

別添

なし

【公演団体名 人形劇団ひとみ座 】

本 公 演 ・ ワ ー ク シ ョ ウ	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	-
	企画名	人形劇『シュレミールと小さな潜水艦』			
	企画のねらい	<p>～動物と潜水艦、全く違う2人が作る本物の人間関係～</p> <p>「自分とは違う相手を理解して受け入れること」そして「相手の本質を姿や形に捉われずに見抜くこと」により、猫のシュレミールと最新型潜水艦アルムには固い友情が生まれ、信頼関係を築いていきます。教育の中で「共生社会の実現」は大きなテーマとなっていますが、一方で児童の悩みの上位には依然として「人間関係」が挙げられ続け、自分とは違う相手を理解して受け入れることの難しさを示しています。主人公達が作る関係性は、まさに人間関係の基本とも言うべきものであり、児童が未来の社会で形成する共生社会の基本でもあります。</p> <p>～SDGsにも掲げられるテーマ「平和と公正を全ての人に」～</p> <p>日本で暮らす児童にとって戦争は遠い存在ですが、SDGsの目標の一つに「平和と公正を全ての人に」がわざわざ挙げられるように、グローバルな視点では平和は今も大きな課題です。本作でシュレミールとアルムが共に望んだ平和への希求は、平和教育の大前提となる人権尊重の精神そのものです。</p>			
	演目概要・演目選択理由	<p>【演目概要】</p> <p>本作は、児童文学『シュレミールと小さな潜水艦』(斉藤洋作)の人形劇作品です。何も知らない猫のシュレミールと、何でも知っている最新型高性能潜水艦のアルムに生まれた友情と冒険を描いた本作品を令和4年度に発表、以降全国の小学校や公立文化施設にて巡演しています。令和4年度舞台芸術創造活動活性化事業(複数年計画支援)採択作品。令和6年度本事業C区分採択作品。</p> <p>【演目選択理由】</p> <p>小学生のスマートフォン所有率は50%に及び(令和元年度総務省調査)、児童は早くからSNSでの人間関係に触れています。そこでは同一の意見を持つ者同士が簡単に集まれる一方、違う意見を持つ者同士がその相違点を受け入れ認め合うことで出来る、本当の人間関係力の基礎が育まれません。野良猫と高性能潜水艦というまさに「異文化コミュニケーション」を題材にした本作品の公演は、本事業に非常に相応しい作品だと考えています。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>児童は、複数人数で1体の人形(深海の生物)を操ります。劇中に登場する潜水艦が浮かぶ海の中が共演する場面です。</p> <p>複数人数で1体の人形を操るためには、児童同士が息遣いをお互いを感じながら動く必要があり、無言のコミュニケーションが求められます。これは、日本の伝統的な文楽の遣いと同じ発想です。ストーリー上のテーマと、共演でのテーマをどちらも『コミュニケーション』とすることで、共演と観劇の相乗効果を高めていきます。</p> <p>また、共演で使用する人形は、事前のワークショップで児童自らが考案して制作したオリジナルの深海生物です。自分で作った人形を遣うことで、児童の興味関心や主体性を誘発していきます。他にも、終演後の児童から出演者への質問コーナー、舞台の裏側を覗くバックステージツアーなども積極的に提案していきます。</p>				
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	40名	鑑賞人数目安	300名

ツ
プ
の
内
容

本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	人形劇『シュレミールと小さな潜水艦』 原作／齊藤洋『シュレミールと小さな潜水艦』(偕成社) 脚本／友松正人　演出／鈴木龍男(前進座)　構成／齋藤俊輔・蓬田雅代　美術／浦部裕光 音楽／坂口野花　音響／横山あさひ　照明／石川哲次　制作／田坂晴男 ～あらすじ～ 世界のとある国。この国では戦争が始まっていた。そんな中、港町で平穏に暮らす野良猫のシュレミールは、ある日クジラのような船を見つけた。好奇心からその船に飛び移ると、船はどんどん沖に進んでしまう。それは最新鋭の小型潜水艦(通称アルム)で、敵に効果的な攻撃を仕掛けられるよう開発されたものだったが、事故により故障を起こして、意思を持ち始めて自走しているのだった。アルムの声に導かれて、シュレミールは潜水艦の中に逃げ込む。シュレミールはアルムの身の上話を聞き、アルムはシュレミールのために世話をする過程で、二人には不思議な友情が生まれ始めた。人間の叡智を込めて作られた頭脳アルムの導き出したシンプルな答えは、戦争を止めたいという結論だった。そしてその結論は、その日気ままに暮らしたいだけのシュレミールも全く同じだった。猫と潜水艦の命を懸けた戦いの結果、戦争は終わり、港町にも平穏が戻っていった。										
	公演時間		90		分						
出演者	シュレミール役…森下勝史 他…齋藤俊輔・松島麗・清水咲季、他1名										
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	○鈴木龍男(演出) 脚本家・演出家。昭和51年劇団前進座に入団後、同団体の数多くの代表的作品で脚本・演出を務める。他団体での活動も活発で、日生劇場制作作品『ちいさな山神スズナ姫』三部作(平成19年～21年)、『とひだせ★孫悟空』三部作(平成25年～27年)では脚本を務める。令和4年度に日本児童青少年演劇協会賞を受賞。 ○友松正人(脚本) 脚本家・演出家・人形劇俳優。平成元年人形劇団ひとみ座入団後、同団体の数多くの作品に参加。平成30年度創立70周年記念公演『まっぶたつの子爵』では脚本・演出を務める。またNHK『三谷幸喜のパペットエンターテインメント「シャーロックホームズ」』ではワトソン役の人形操演で参加するなど、舞台・映像両面から活動を行う。日本人形劇人協会理事(令和5年～)。 ○森下勝史(出演、シュレミール役) 人形劇俳優。平成17年人形劇団ひとみ座入団後、同団体の数多くの作品に参加。平成18年より6年間かけて開催したシェイクスピア三部作『リア王』『マクベス』『テンペスト』の全作品に出演、日生劇場制作作品にもこれまで9作品に出演するなど、多様なジャンルの作品に参加している。令和5年度より本事業B区分採択『9月0日大冒険』のワークショップ主任講師を務める。										
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:		5		名		運搬	積載量:	2		t
		スタッフ:	2		名			車　長:	7		m
		合　計:	7		名			台　数:	1		台
本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安 本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	前日仕込		無		前日仕込所要時間				時間程度		
	到着		仕込		上演		内休憩		撤去		退出
	7時30分		7時30分～10時30分 →(ワークショップ) 10時30分～12時00分		13時～14時30分		10分		14時30分 ～16時30分		16時30分
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。										
	6月		7月		8月		9月				
5日		0日		0日		0日					
10月		11月		12月		1月					
15日		15日		15日		10日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		60日					

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡



(図1) 体育館フロアに舞台を設置した状態。
舞台設置に必要な大きさ間口10m×奥行9m×高さ4m



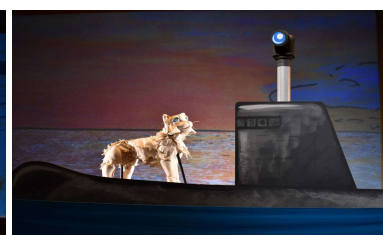
(図2) 舞台を横からみた図。舞台は体育館のステージ上ではなく、フロアに設置します。



(図3) 港町に住む野良猫のシュレミール。みんなはシュレミールのことが大好きだった。



(図4) ふとしたことからシュレミールは潜水艦に乗り込む。その船は、あっという間に深海へ。



(図5) その潜水艦の名はU5114。通称アルム。最新型の小型潜水艦アルムは、自分の意思を持って行動している。



(図6) 何にもわからないシュレミールと、何でも知っているアルム。そんな二人(?)に友情が芽生える。



(図7) そんな中、アルムを沈没させろとの命令が下る。一方アルムは、ある作戦を実行しようとする。



(図8) シュレミールとアルム。二人は大好きな人や命を守ることが出来るのだろうか・・・。

著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名	『シュレミールと小さな潜水艦』原作
	該当事項がある場合	権利者名	斉藤洋		許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

人形劇団ひとみ座

】

ワークショップの
ねらい

～言葉に頼らず、息を感じて、気持ちを合わせる体験～

「頭を左に、尾びれを右に動かして」など言葉を使って指揮をとれば、複数児童で1体の人形を遣うことは簡単です。しかし、それはお互いが段取りを決めて動いているだけであり、演劇の本質ではありません。お互いの呼吸やしぐさからその意志を感じ合うことで、コミュニケーションのキャッチボールが生まれます。人形は児童が遣いやすいよう簡素に動かせるものですが、その遣い方の本質は日本の伝統的人形遣いと全く同じ発想です。本ワークショップを通して、「言葉に頼らず、息を感じて、気持ちを合わせる体験」を創出します。

～多様な得意分野を持つ児童全員が活躍できる機会～

人形劇鑑賞では、人形を遣う俳優の「演技」に注目が集まりがちですが、人形劇にとって「デザイン」や「工作」などの要素は非常に重要です。本ワークショップでは、オリジナルの生き物を考える作業(デザイン)、考えた生き物を作る作業(工作)を取り入れています。児童一人一人が、自分の得意分野を発揮しながら、能動的に参加出来る機会を作り出します。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

40名

ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

標準:90分(小学校の2時限分)

児童は複数人で1体の人形(深海の生物)を製作して操作します。普段私達はどうやって「立つ」「座る」「歩く」などの行動をしているのかを改めて確認しながら、さらに「この生物ならどう動くのか」に発想を広げていきます。実際に動くときは、お互いの呼吸を感じ取り、タイミングをとることを意識します。

①共演内容の説明

講師が人形劇『シュレミールと小さな潜水艦』全体、及び共演する場面の説明をします。

～共演場面の概要～

ここは深い海の中。人間達はまだ知らない生き物が自由に暮らしている。ネコのシュレミールや潜水艦アルムは、未知なる深海の生物と出会い、世界の広さを実感する。

②オリジナルの深海の生き物を創り出す

児童の自由な発想で、作中登場する未知の深海生物をオリジナルで考えます。名前・特徴などをみんなで考えていきます。

③グループ毎に分かれて、人形を製作する

いくつかのグループに分かれて、児童は考え出した深海の生き物を用意された素材を使って製作します。

<休憩>

④人形の遣い方を習得する。

1体の人形を複数名で遣います。自分達で作った人形をどう遣えば良いのか、出来上がった人形に合わせて講師が指導をしていきます。

⑤共演部分の練習

共演部分を最初から最後まで通して練習します。

その他ワークショップに
関する特記事項等

○参加児童数が極めて少ない場合

1体の人形を遣うチームに劇団の出演者も交じるなど、少人数ならではの濃密な体験を実現します。

○特別支援学校等で実施する場合

人形をより簡素なものにする、簡単な打楽器の演奏パートを加えるなど、実施校の事情に応じてオリジナルの共演プログラムを作成することで、児童の実りある参加を実現します。

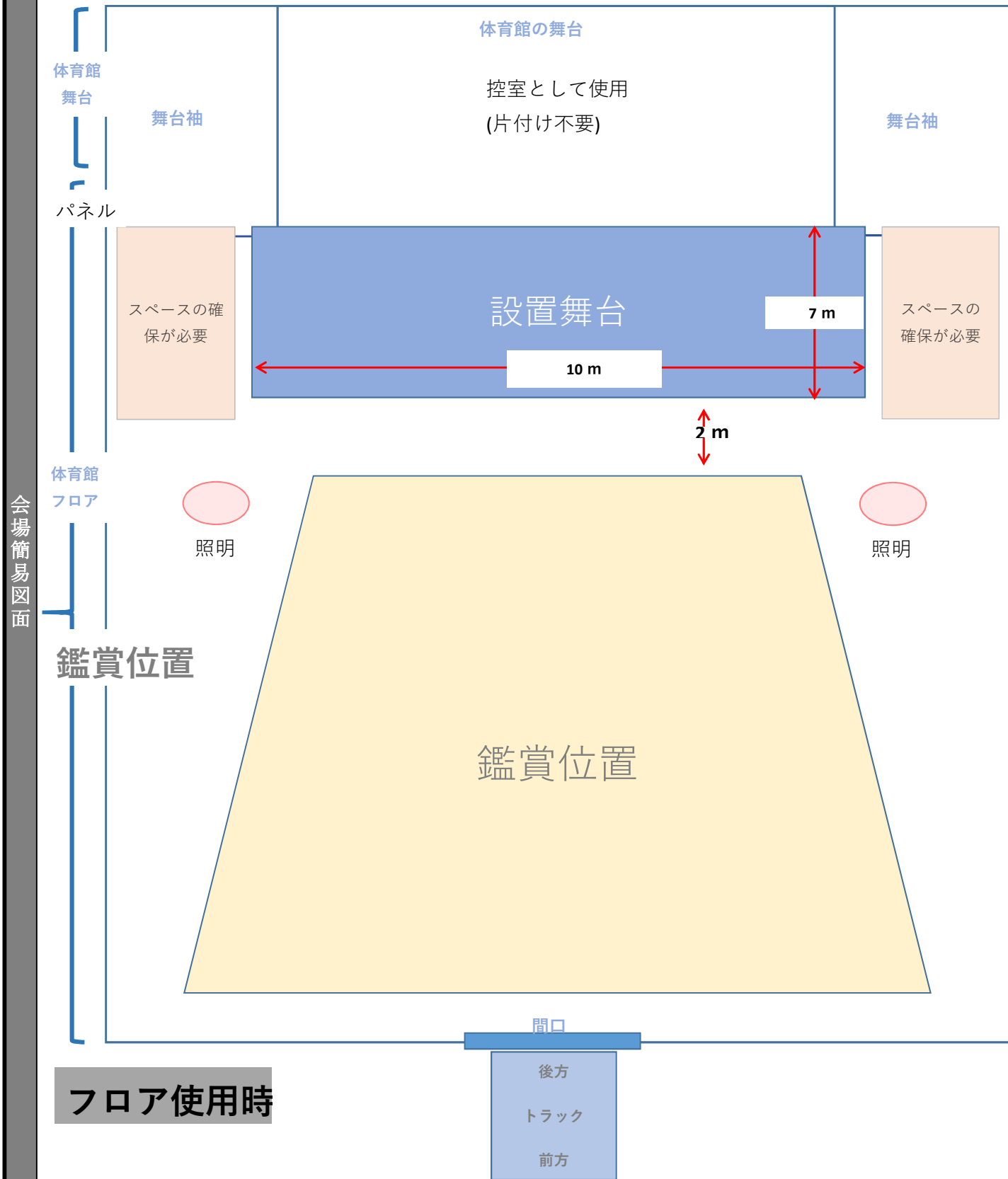
時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名

人形劇団ひとみ座

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

本事業の大きな特長は、学校という日常空間のなかで本物の芸術鑑賞体験が実現できる点にあると考えています。

日常的に教育を受けている体育館が「劇場」となり、日常を共に学び過ごしている仲間と、観劇・体験後すぐにその感想を共有し合える環境は、児童相互の感性や表現力の育成に繋がることは間違いありません。一人で鑑賞が完結してしまうインターネット動画視聴やゲームでは生まれない、瞬間的な感動から生まれる児童間のコミュニケーションが成立することにより、情操教育の相乗効果が生まれます。

以上の実現に向けて、本上演作品ならではの事業に対するアプローチとして、『文化芸術への幅広い興味の誘発』と『異文化コミュニケーション力の育成』の二点を重要視して、事業を遂行していきます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

～文化芸術への幅広い興味の誘発～

個性豊かな児童の幅広い才能の向上に繋がるよう、講師からの一方的な技術指導ではなく、児童の主体的参加を促す指導プログラムを実践します。複数児童が協力して自由に海の生き物の動きを想像して創り出すプロセスを通して、児童同士での話し合いから生まれる演技の創造を促して、文化芸術への幅広い興味を誘発していきます。

～異文化コミュニケーション力の育成～

アフターコロナで一気に復活した対面のコミュニケーションに戸惑う児童もいる教育現場で、今一番必要な「お互いに人間関係を育み合う機会」を創出します。

全国で推進されている異文化理解のための教育プログラムは、我が国が今後率先して理想的な社会を実現するために必要不可欠な要素です。SDGsにも謳われる「誰一人取り残さない社会形成」を実現するために、自分と異なる集合体や考え方を素直に受容する能力の育成は極めて重要なポイントです。お互いの得意分野を発揮しながら共同で一つの表現を達成する経験を本事業により創出して、更に学校独自での表現教育プログラムとの連携を先生方に促すことで、児童の異文化コミュニケーション力の継続的育成を目指していきます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

ワークショップより前に当劇団担当者が実施校と十分な打ち合わせを行います。打ち合わせ以降ワークショップから本公演に至る過程で発生する点や留意する点を一冊にまとめたガイドを作成・配布することで、担当教員の理解促進に加えて、学校内での情報共有を容易にしていきます。打ち合わせ方法は訪問・オンライン・電話の三択から実施校に選んでいただきます。

担当教員の異動で事業内容を新しい担当の先生が理解されていない場合、窓口となった先生と実際に児童に指導をする先生との間で必要な伝達が行われないことも起こり得ますので、詳細且つ要点をおさえた打ち合わせを心がけます。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

打ち合わせ段階で、実施校在籍児童の日常の様子について聞き取り調査を行いながら、合理的配慮を要する児童について担当教員よりご意見を伺います。該当児童を考慮した着席位置、暗転のための体育館遮光の加減など、必要に応じた対応を行います。

本事業の体験において、児童の人形操演や演技が上手くなる現象はもちろん発生しますが、それ自体は趣旨ではありません。観客を意識しながら人形で演じることの意義、自分とは異なる呼吸をしている相手を感じ取りながら人形を遣うことの意義について、体験を通して学ぶことが本事業の趣旨です。本趣旨に児童が混乱なく到達するために、ワークショップや共演内容・本公演作品内容の全てにおいて、「自分とは異なる相手を知り、その本質を見ぬこと」というテーマに一貫性を持たせています。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

児童生徒が主体的に発表・質問をする場の設定、舞台芸術への興味を更に誘発するためのバックステージツアーなどの意義についても、先生方と丁寧に共有をしていきます。また、担当教員との打ち合わせを事務的な項目に限定せず、本事業の狙いについて明確に説明して理解を得ることで、本事業において学校全体が得た共有体験が、以降の学びを促進する教材として活かされることを目指していきます。

別添

なし

【公演団体名

人形劇団ひとみ座

】

特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫

①離島・へき地等における公演実績

平成30年度より5年連続で、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業『島からの発信事業「郷土芸能によるステージ」と「人形劇ひょっこりひょうたん島」』を実施してきました。日本全国に点在する魅力ある離島の文化を国内外に発信することを目的として、島の郷土芸能と人形劇のコラボレーション企画を10島で行いました。

公益社団法人日本児童青少年演劇協会より依頼を受けた事業では、平成27年度より9年連続で関東地域のへき地にある小学校での公演を実施、これまで約45校で公演を行ってきました。

他にも、全国の児童の文化芸術鑑賞機会の均等化に寄与するため、劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業(平成27年度から令和7年度において9年間の採択実績)を活用するなど、各地域の文化団体と協力して離島・へき地での公演を毎年実施しています(過去2年間の平均で、離島へき地毎年約20公演)。また本事業においては、本上演作品が令和7年度C区分に採択されています。

【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】

②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つための工夫

本上演作品『シュレミールと小さな潜水艦』は、元々離島・へき地での公演を主に想定した作品です。世界の児童文化芸術の共通課題として「アクセシビリティ」が挙げられる中、我が国の全ての児童に対する人形劇鑑賞機会の提供を目指して、当団体他作品と比して演出効果を落とさず、且つ人員及び運搬物量を抑制する形で制作しました。

また、離島・へき地での公演に当たり、そこに住む児童に届けるメッセージにも工夫を施しています。SDGsが採択されて以降、日本でも毎年アクションプランが制定され、その推進ポイントとして「次世代のエンパワーメント」「地方創生」などが挙げられました。それらの目標は、誰もが生きやすく活躍出来る社会を持続的に作ることで共通しています。広大な海を舞台に平和を扱う本作の公演が児童の豊かな感性を育むと同時に、ときに社会的閉鎖性を帯びやすい環境で育つ児童に向けて異文化理解への使命感を喚起していくよう、事前事後学習についても学校と連携しながら、本事業を実施していきます。

【質を保つための工夫】

「日常の学びの場である体育館が劇場になる」感動を実現させるためには、舞台が小規模であってはいけません。大道具等の点数が少ない中でも、映像による背景描写、幕など折り畳み可能な素材による舞台構成など、あらゆる手段を駆使して、当劇団の他の作品に全く劣らない視覚効果を実現させます。また、本公演と同一日に開催するワークショップの講師を出演者と完全に重複させることで、一般区分と同様規模の事業を実践します。

③特別エリア区分応募における、費用面の工夫

経費節減のために、公演作品の道具類からワークショップで児童が使用する人形まで、全てを当社所有の2トントラックに積載出来るよう設計することで、別途運搬業者を手配する必要がなく、且つ公演団の中から2名が運搬車の運転者となるため(運搬車で移動出来るため)、その分移動費の抑制に貢献します。

また、次々と変わる舞台背景をプロジェクター映像により表現することで、転換等に必要の要員を削減して、演出効果と経費節減の両立に努めます。